＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日本の伝統的な住まいを見直そう！～京都編～

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要

１．プロジェクトの目的

日本は南北に長い島国であるため地域によって様々な風土があり、その地域にあった住まいが形成されてきた。この内容は小中高の家庭科でも、沖縄の平屋、北海道の二重扉や急傾斜の屋根、岐阜の合掌造り、京都の舟屋や町家などの特徴が挙げられている。地域の住まいを見直すことは、地域の気候や風土をよく知ることにつながり、サスティナブルな生活を営むことができるとともに、うもれている地域の資源（宝）を掘り起こし、ふるさとへの愛着心が高まり、地域活性化への礎になるとも考えられる。

しかし、教科書には簡単な説明と写真しか記載されておらず、また時間も限られているため、軽く触れられる程度である。そこで、短時間でも伝統的な住まいの形やその性能、そこでの暮らしについて理解を深められるように、日本の伝統的な家屋の映像教材を作成しようと考えた。

今回のプロジェクトにあっても時間や予算が限られているので、本研究では京都の伝統的な家屋（伊根町の舟屋、京町家、古民家など）の特徴を取材し、それぞれを映像として撮影し、授業でも活用できる映像と資料を作成することを目的とする。

２．代表者及び構成員

・代表者

仲島　聖子　　家政教育専修　Ｍ２

・構成員

村田　遼平　　家政教育専修　Ｍ１
的崎　あかり　家庭領域専攻　４回生
森口　陽香　　家庭領域専攻　４回生
深町　千尋　　家庭領域専攻　３回生
宮本　由妃　　家庭領域専攻　３回生
平　日登美　　家庭領域専攻　２回生

３．助言教員（学科）

延原理恵（家政科）
榊原典子（家政科）

第２章　プロジェクトの内容及び実施経過

本プロジェクトの内容は、京都府にある伝統的な住まいを取材し、映像を撮り、家庭科の教員が住生活分野で伝統的な住まいの話をするときに、使用できる教材を提供するための映像と資料を作成することである。

本プロジェクトの実施経過は、表１のとおりである。10 月 10 日（木）に参加できるメンバーが集まり、顔合わせと改めて本プロジェクトの確認をし、企画、会計、撮影などの役割分担をした。10 月 17 日（木）に第１回見学会として、京町家「紫織庵」を見学した。参加人数は、3 名だった。10 月 24 日（木）、31 日（木）に第２回見学会のための打ち合わせを行った。ここでは、行程、宿泊、撮影、会計と役割分担を行い、計画を進めていった。11 月 3 日（日）、4 日（月）に第２回見学会「舟屋」を行った。参加人数は 4 名だった。2 回の見学で撮影した映像データを使いやすいように編集し、資料をまとめた。

表１　プロジェクトの実施経過

実施日	実施内容	参加メンバー
10 月 10 日（木）昼休み	顔合わせ、役割分担	仲島、的崎、平
10 月 17 日（木）15 時～	見学会①京町家「紫織庵」	仲島、的崎、森口
10 月 24 日（木）昼休み	見学会②の打ち合わせ	仲島、的崎、平
10 月 31 日（木）昼休み	見学会②の最終打ち合わせ	仲島、的崎、平
11 月 3・4 日（日・月）終日	見学会②舟屋（伊根町）	仲島、的崎、森口、平

第３章　プロジェクトの実施結果や成果

１．京町家「紫織庵」

京都市中京区新町通り六角入るにある京町家「紫織庵」を見学した。ここは、江戸時代後期に医院が営まれていた建物で、京都市の指定有形文化財に指定されている。明治時代になると医院と門弟の教育所として使用されていた。大正 15 年にライト様式のモダンな洋室を増築し、昭和 40 年から平成 9 年まで川崎家の本宅兼迎賓館として引き続き使用されていた（写真１）。

写真１　紫織庵の外観

「紫織庵」の特徴は、2 つあり、1 つは、伝統的な「大塀造」であるということである。京町家の造りは、「大塀造」の他に「表屋造」もある。「表屋造」は、うなぎの寝床とよばれるみんながよく知っている町家である。通りに面してみせと呼ばれる部屋があり、商売をしたり、手工業を営んだりしていた。奥に行くとご飯を食べたり寝たりする生活の空間があった。玄関から奥まで全ての部屋の横を通るようにして通り庭と言われる細い土間の廊下が通っていた。通り庭にはおくどさんがあった。大きい家になると、坪庭や蔵がたくさん建っている。中には漬け物を漬けておくためだけのつけもの蔵をもつ家もあったという。家が発展すればするほど間口が広くなるのが特徴で、町家といえば縦に長い家を想像するが、通りに面して 3 部屋も横に広がっている家もあるそうだ。2 階がある町家もあったが、1 階よりも天井が低く、物置として使用されていた（図１）。

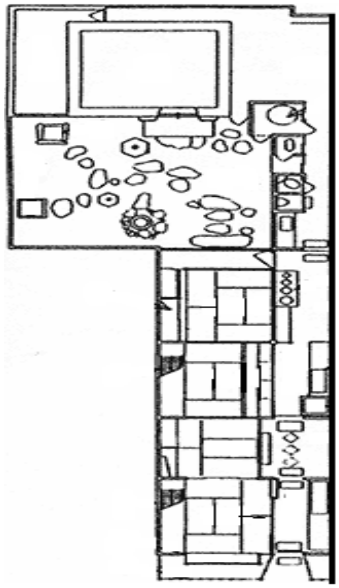

図１　表屋造の平面

一方、「大塀造」の方は、敷地のまわりをぐるりと塀で囲われている。通りに面してはいるが、高い板塀が建っているため路から家の中を見ることができない。ここから「大塀造」という名称が付けられた。「大塀造」の町家は、商売や手工業を営んでいるわけではなく、町家を住宅や別荘として使用していた（図２）。

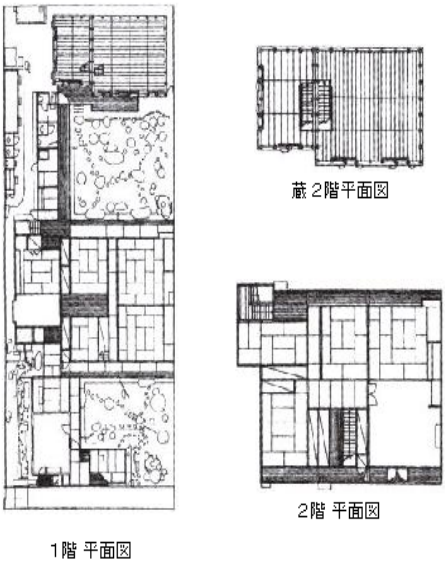

図２　紫織庵（大塀造）の平面図

もう１つの特徴は、ライト様式の洋館が増築されているということである。玄関は客人用、家人用、使用人用と３ヶ所あり使い分けられていたようだ。客人用の玄関を入ってすぐに、客を迎えるための洋間がある（写真２）。これは、武田五一がフランス・ロイド・ライトの建築を参考にして設計したもので、外壁にはタイルが貼られ、内部はフローリングで、暖炉が設けられていた。2 階にも洋間サロンがあり、暖炉、ステンドグラス窓、シャンデリアと洋風な造りとなっていた（写真３）。「鉾見台」が設けてあり、祇園祭のときには屋上で見物をしていたようだ（写真４）。

写真２　玄関横の洋間

写真３　２階洋間サロン

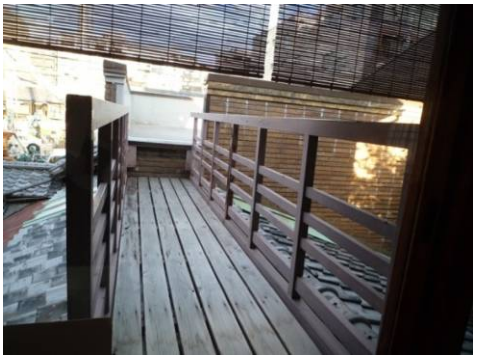

写真４　鉾見台へ渡る廊下

以上より、京町家「紫織庵」の映像と資料から、京町家の「表屋造」と「大塀造」という２つの様式を学ぶことができた。また、おくどさん、蔵、波うちガラスなど昔の暮らしにも迫ることができると考える。さらに、通

り庭、坪庭、窓の設け方から昔の人の夏を涼しく過ごすための生活の知恵
も学ぶことができる。

２．舟屋

京都府与謝郡伊根町の舟屋を見学した。伊根町は、日本海でありながら南向きの伊根湾をもっている。伊根湾沿いには、海面ぎりぎりに立ち並ぶ約230軒の舟屋が立ち並んでいる。この景観は、国に重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。道路から露地を抜ければすぐに海に出ることができ、磯の香りのする美しい場所であった（写真４、写真５）。

写真４　高台から見た伊根湾

写真５　伊根湾から見た舟屋

舟屋とは、舟のガレージである。海面ぎりぎりに小屋を建て、舟が出入りしやすいように傾斜がつけられていた（写真６）。舟屋は２階建てであるが、１階には舟の他に舟を整備する道具や漁に使う道具、取れたての新鮮な魚を調理する流しや包丁、洗濯機などの生活用品が置いてあり、トイレがあった（写真７、写真８）。

写真６　舟のガレージ

写真７　舟屋１階内部

写真８　漁に使う道具

2 階は物置や時には寝泊まりするために使われているそうだ。1 階も 2 階も天井が非常に低く、頭をぶつけそうなほどであった（写真９）。細い路を挟んで、主屋があり、居住空間として使用されているが、トイレはなく舟屋にあるのを使っているそうだ。今回の見学では主屋の中までは見せて頂くことができなかった。もう１つ土蔵も残っており、この当たりに住む人たちは、舟屋、主屋、土蔵の 3 つを持っているのが普通であるそうだ（写真１０、写真１１、図３）。

写真９　舟屋 2 階から見た風景

写真１０　土蔵

写真１１　伊根湾から舟屋、蔵、主屋

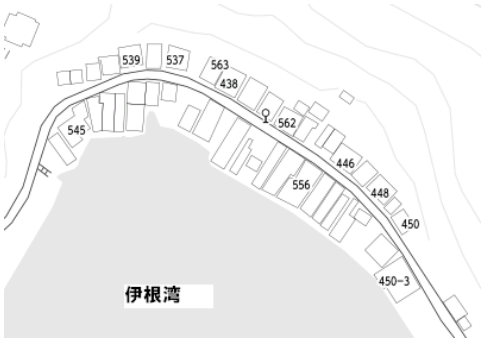

図３　伊根湾沿いの地図

このような舟屋の映像と資料からは、全国的にも珍しい舟屋について学ぶことができる。舟屋の立ち並ぶ景観や舟屋内部、さらに海上からの映像もあるため、一歩踏み込んだ話をすることができるのではないかと思う。

第４章　まとめと反省、今後の展望

本プロジェクトでは、京都府にある伝統的な住まいを取材し、映像を撮り、家庭科の教員が住生活分野で伝統的な住まいの話をするときに、使用できる教材を提供するための、映像と資料を作成することを目的に研究を進めた。

今回は、京町家「紫織庵」と舟屋の２ヶ所を見学することができた。「紫織庵」では、みんなのよく知る典型的な町家ではなく、「大塀造」という居住や別荘として使用された町家をレポートすることができた。町家イコールうなぎの寝床であると思われがちなところを今回の映像と資料を使うことで町家にもさまざまな造りがあるということに気付かせ、学ばせる事ができるのではないかと思う。また、おくどさん（写真１２）、蔵、波うちガラス（写真１３）など昔の暮らしに欠かせないものも見せながら話すことができ、昔の暮らしについてイメージしやすくすることができると考える。さらに、通り庭、坪庭（写真１２）、田の字型の間取りやたくさんの窓から昔の人の夏を涼しく過ごすための生活の知恵も学ぶことができるのではないだろうか。

写真１２　おくどさん

写真１３　波打ちガラス

写真１４　坪庭

舟屋では、舟屋の立ち並ぶ景観や舟屋内部、さらに海上からの映像と舟屋に関する様々な角度からの映像を撮ることができ、地元の方に話を聞くことができた。舟のガレージでありながらと人々の生活の一部を担っている舟屋について、今回の映像を用いることで、外観だけでなく舟屋の内部を見ることができ、生徒たちの舟屋に対する理解が進むと考える。

映像を撮り、それを授業に使うということは、平面で見るよりも立体で見る方がわかりやすいように、生徒たちへ伝えやすくなると考える。しかし、生徒がその地を訪れ目で伝統的な住まい見るのが難しいのはもちろんのことだが、教員自らが現地に出向いて映像を撮り、編集するのも大変なことだと考える。そんな時、伝統的な住まいの映像と簡単な解説資料があれば、簡単にわかりやすい授業を行うことができるのではないだろうか。

今回、京町家「紫織庵」と舟屋の２ヶ所しか見学をすることができなかったが、京都府にある伝統的な住まいは他にもたくさんある。また、京都だけではなく全国的にも、沖縄の平屋、豪雪地の二重扉や急傾斜の屋根、岐阜・富山の合掌造りなどたくさんの伝統的な住まいがある。さらに、世界にまで広げていくと、その国その国にあった伝統的な住まいが存在している。今後は、それらの伝統的な住まいについても映像を撮り、編集し、簡単な解説資料を作成して、家庭科の住生活分野や社会科の地理、生活科、英語科など他の教科でも使用できる教材を完成させていきたいと考えている。